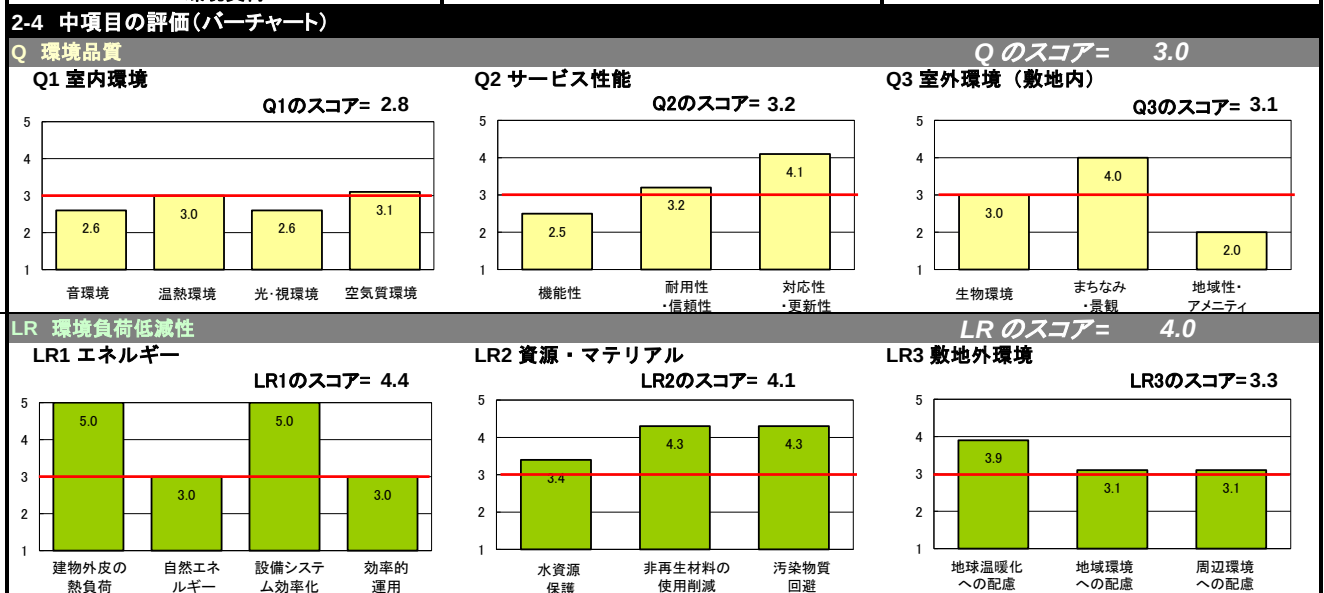
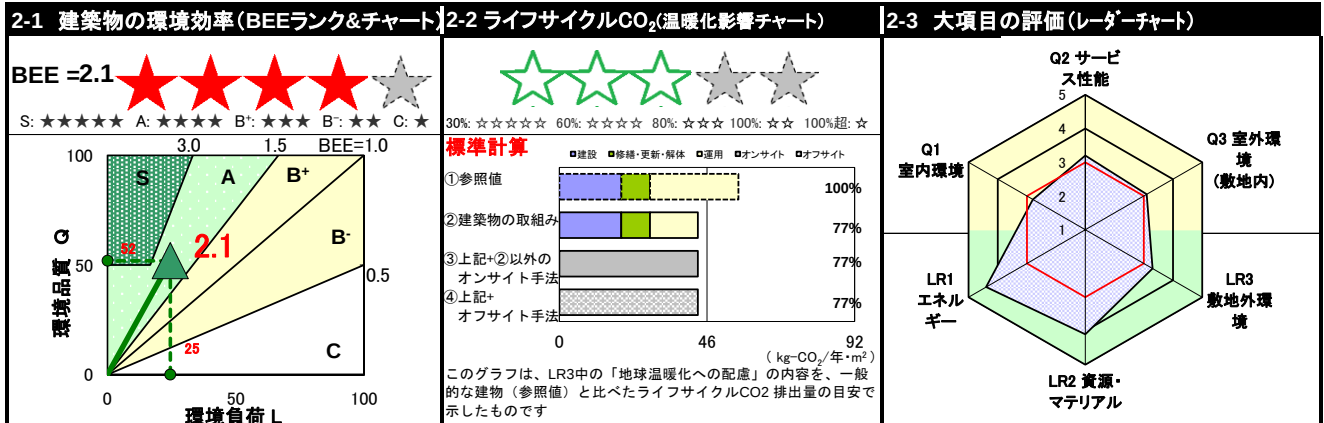


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋大江町物流施設建築計画	階数	地上4F
建設地	名古屋市港区大江町3-14、3-15、3-18、3-23	構造	S造
用途地域	工業専用地域、準防火地域	平均居住人員	570 人
地域区分	6地域	年間使用時間	6,570 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年9月 予定	評価の実施日	2025年11月25日
敷地面積	26,626 m ²	作成者	
建築面積	18,589 m ²	確認日	2025年11月25日
延床面積	64,420 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
名古屋市区に計画された地上4階建て、S造の倉庫。 高効率設備や節水器具を採用し、ライフサイクルCO₂排出量の削減に努めた。		
Q1 室内環境 化学汚染物質対策として、内装材及び取付接着剤は全て☆☆☆F4を採用した。	Q2 サービス性能 階高は6.5m以上、壁長さ比率は0.1未満とし、ゆとりある空間となるよう計画した。	Q3 室外環境(敷地内) ネットフェンスの色彩をステンカラー色とし建物と一体的仕上とすることで、周辺のまちなみと調和するよう配慮した。
LR1 エネルギー 高効率の設備を採用することで運用時の消費エネルギー削減に努め、BEI=0.54とした。	LR2 資源・マテリアル 水資源保護として自動水栓や節水型便器を採用。躯体と仕上げ材が容易に分別できるよう地下構造はLGSとし、部材の再利用可能性向上に努めた。	LR3 敷地外環境 適切な量の自転車置き場、駐車場を確保し、交通負荷制御に努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋大江町物流施設建築計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.6
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.118742804	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.01187428	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.059371402	
3. 循環型社会				4.0
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.1



2. 自然共生

評価点 = 2.6



3. 循環型社会

評価点 = 4.0



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。